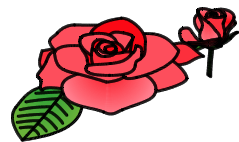


えん罪・仙台北陵クリニック事件 千葉刑務所 守大助さん面会記



2月12日(月) ご両親

茨城、千葉に大雪警報が出ている中、栃木に入っても雪がなく、不安をつのらせながら千葉に、路面は濡れていた程度で到着。翌日面会、部屋に入るなり「雪大丈夫だった、来れないと思っていた」との一声、千葉が雪なので、東北はさらなる大雪で今日は無理と思っていたとのこと。

そんなこんなで時間ロス、年賀状は最終的に1030枚、職場移動はないが担当替えて以前の下処理に、いくらか慣れているので余裕が感じられた。千葉も今年は寒さが厳しいので、10年ぶりにホッカイロの使用が許可され、布団に2個入れ体温確保されている様子、細長で綺麗な指は赤くはれて目を背けたくなる状態。弁護士と手紙交換しながら身上書を再度書いているとのこと。2月28日で丸1年その先は。

帰りが心配されたが降雪もなく無事帰宅、来月にはこんな心配もしないで済むし、息子のあかぎれも治るよう早く暖かくなるのを期待するのみ。心配性なので速達で無事帰宅を報告した

2月25日(月) 千葉・玉田ミタテさん、典彦さん

1ヶ月ぶりの笑顔。ほっとして、早速お母さんの伝言と添田さんの質問をしました。「あやこちゃん」のこと、覚えていない。ホカロンは1日1個使用可、月に30個支給。ハンドクリームは自分で購入する。中で不自由なことがないか、「大丈夫」と彼は笑う顔。力強い大人の守大助さんがガラスの向こうにいた。私の旦那を見て「今日は元気そうですね、心配してましたよ」。前回の面会の時に元気がなかったのを見ていたので心配したようです。とにかく取り戻す迄お互い元気だと大笑いした。キャベツ120キロ、ニラ50キロを刻む作業、1000人分を1時間で調理し、下処理、洗い場は水で手が荒れる。今回は、九十九里の海の写真集を差し入れようとしたが、まだ製本になっていないため張り合わせの写真ファイルを持参したが、差入れ許可されなかった。特に新聞の切り抜きは年賀状の宛名(救援新聞の印刷)はがしが大変だったとか、刑務官と一緒に一枚一枚剥がしたそう。日ごろはテレビのニュースを見ていることや休みは少しゆっくりできる、いつもよりたくさんおしゃべりをし、笑い、そして必ず勝とうと誓い合って帰ってきた。

えん罪・仙台北陵クリニック事件とは

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃棄され、再鑑定ができない。

2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時抗告を行うが2018年2月28日棄却される。3月5日最高裁に特別抗告を行う。

1月21日(月) 八戸支部(阿部さん)

東京・千葉は気温11度と、春のような温かい日であった。いつもは千葉駅から救援会千葉の車で送迎して頂いたが、今回はバスで刑務所まで行く。月曜日ということで、受付は外国人らしき家族で大混雑。差入れは、面会后と言われたが、帰りにしっかりと忘れる。面会は20分くらい待つて実現。大助さんが、笑顔でさっそうとした元気な姿で現れた。

今年の年賀状は刑務所の収容者分を上回ったそうです。私からは、年末に持たれた弘前の「北陵クリニック事件の学習会」を機に、大助さんの支援する会が出来たことを報告した。出来れば弘前から面会に来て本人と会えば、このような人なぜ無実の罪で収監されているのか納得してもらえるのではないかと。

日本の司法が、戦後70年も経つのに公正公平な審理が出来ていないかがわかるでしょう。最高裁に対し、えん罪事件5事件が再審要請中です。



激励先〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 **2019年 127号**

● 3月は月上旬にメール等でお知らせします。救援会神奈川県本部に問合せ。

□面会申込み/□ 国民救援会神奈川県本部 Tel050-3310-1368 fax045-663-7953。

E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp 発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730 fax043-239-7740

面会感想にご協力をください。千葉県本部へ E-mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp